

大熊 孝著 洪水と水害をとらえなおす 自然観の転換と川との共生

大熊 孝 著

川と自然の
転換と
の共生

実は、人と自然との関係性が希薄になってしまっていることは見せかけでしかなく、この地球上で生きるかぎり、人は自然と切って存在することはできない。日常の見せかけの快適性は、非日常の災害時に、何の準備もなく強烈なしつべ返しを受けているのである。

洪水と水害を とらえなおす

日本人の伝統的な自然観に迫りつつ、
今日頻発する水害の実態と今後の治水のあり方について論じ、
ローカルな自然に根ざした自然観の再生と川との共生を展望する。
大熊河川工学集大成の書。

洪水と水害を論すれば当然ながら立ち向かう大波——伝統と近代化の相克——それを見事に泳ぎ切った著者ならではの快著。
確固たる歴史観と地域特性の理解なくしては到達できない。

内山
節

民衆の自然観を破壊していった近代国家の自然観。本書は、
それを見据えながら川と人間の関係を問いかける大熊河川工学
の集大成である。

高橋
裕

新潟大学名誉教授

農文協

発行 農文協プロダクション
発売 農文協
定価 本体 2700円+税
B5判変型 284頁
2020年5月発行

著者プロフィール……大熊孝（おおくまたかし）新潟大学名誉教授・水の駅ビューフ島潟名誉館長・NPO法人新潟水辺の会顧問・日本自然保护協会参与・（公財）こじじ水と緑の会理事・NPO法人日本ビオトープ協会顧問。1942年台北生まれ、高松・千葉育ち、新潟市在住、1974年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）、新潟大学工学部助手、講師、助教授、教授を経て、2008年新潟大学名誉教授、同年新潟日報文化賞受賞。専門は河川工学・土木史、自然と人の関係、川と人の関係を地域住民の立場を尊重しながら研究している。著書に『利根川治水の変遷と水害』『洪水と治水の河川史—水害の制圧から受容へ』、『川がつくった川、人がつくった川—川がよみがえるためには』、『技術にも自治がある—治水技術の伝統と近代』など多数。

内容紹介……「洪水と水害をとらえなおす」というタイトルを不思議に思った方もいるかもしれない。しかし、「洪水」は自然現象であり、「水害」は人の営みにともなう社会現象である。水が溢れてもそこに人の営みがなければ「水害」ととはいわない。本書は、「洪水」と「水害」その両者の関係性を中心に論じている。読みどころは3つ。ひとつは2000年代に入って増大した大規模水害に関する詳細な解説と有効な手立てについての提言、また、洪水・水害との関係からみた日本人の自然観についての考察、そして、これから社会の基盤となるべき「都市の自然観」「地域の自然観」創造の提唱である。川に関する初步的な専門用語を「予備知識・川の専門用語」としてとりまとめていることも魅力のひとつ。自然災害が多発するなか、ぜひ手に取っていただきたい一冊。

目 次

I 川と自然を私はどう見てきたのか

第1章 日本人の伝統的自然観・災害観とは

第2章 近代化のなかで失われた伝統的自然観

第3章 小出博の災害観と技術の三段階

予備知識・川の専門用語＝流域と流域面積／「洪水」と「水害」の違いと、川で使う流量単位／川の右岸、左岸／堤内・堤外と内水・外水／基本高水と計画高水流量——治水計画の立て方／ダムとは／多目的ダムの容量配分と洪水時の予備放流・事前放流・緊急放流（ただし書き操作）／番外一水害調査心得 ほか

II 水害の現在と治水のあり方

第4章 近年の水害と現代治水の到達点

- 1 2004年7月 新潟水害と福井水害
- 2 2011年9月 台風12号による紀伊半島・相野谷川水害
- 3 2015年9月 利根川水系鬼怒川の破堤
- 4 2016年8月 岩手県小本川水害
- 5 2018年7月 岡山県倉敷・小田川水害
- 6 2019年10月 台風19号広域水害
- 7 現代の治水計画における問題点
- 8 ダムは水害を克服できたか？
- 9 ダム計画の中止とダムの撤去工事について

第5章 究極の治水体系は400年前にある

——堤防の越流のさせ方で被害は変わる

- 1 信玄堤は本当に信玄が築いたのか？
- 2 筑後川右支川・城原川の“野越”

3 加藤清正の「轡塘」

4 桂離宮の水害防御策

5 信濃川左支川・渋海川（長岡市）の事例

6 近世における利根川治水体系

第6章 今後の治水のあり方

——越流しても破堤しにくい堤防に

1 現代の治水問題

2 治水問題の解決は越流しても破堤しにくい

堤防にある

3 堤防余裕高に食い込んで洪水を流す

4 今後求められる堤防のあり方

——スーパー堤防に関する補足を兼ねて

III 新潟から考える川と自然の未来

第7章 民衆の自然観の復活に向けて

——自然への感性と知性をみがく

1 ボランティア活動の限界

——NPO法人新潟水辺の会の取組みから

2 水辺との共生を次世代に継承するためには

第8章 自然と共生する都市の復活について

——新潟市の「ラムサール条約

湿地都市認証」への期待

1 都市における「自然との共生」の試み

2 越後平野の開発の変遷

3 越後平野の自然復元の兆し

4 越後平野全域をラムサール条約“湿地都市”に
——「都市の自然観」の創造に向けて

5 「社会的共通資本」としての川・自然環境と
「都市の自然観」

発行：株式会社 農文協プロダクション

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-17

電話 03-3584-0416 ファックス 03-3584-0485

<http://www.nbkpro.jp/>

発売：一般社団法人 農山漁村文化協会（農文協）

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

電話 03-3585-1142（営業） 03-3585-1145（編集）

ファックス 03-3585-3668

<http://www.ruralnet.or.jp/>

篠原 修 著

河川工学者三代は川をどう見てきたのか

安藝皎一、高橋裕、大熊孝と近代河川行政一五〇年

河川工学者 三代は 川を 見て きた の か

安藝皎一、
高橋裕、
大熊孝と
近代河川行政
一五〇年

篠原 修

Osamu Shinohara

農文協
定価（本体 2200 円+税）

河川に捧げた碩学三代の生き様と
観智を篠原修の名文で読み解く。
土木・都市・建築、
すべての人に読んでほしい。

建築家・南京大学名誉教授 内藤 廣

人間は川を通じて自然と結ばれ、
それぞれの世界をつくってきた。
川のあり方からこれからの
社会を考える絶好のテキスト。

哲学者 内山 節

現場から、歴史から川を見続けた
河川工学者三代＝安藝皎一、高橋裕、大熊孝。
彼らの生涯を描くことを通じて
近代河川行政の到達点と課題を明らかにし、
環境・景観・自治の河川を展望する。
平成30年度土木学会出版文化賞受賞！

発行 農文協プロダクション
発売 農文協
定価 本体 3500 円+税
四六版 448 頁
2018 年 3 月第 1 刷発行
2020 年 5 月第 2 刷発行

著者プロフィール…………篠原修（しのはらおさむ）1945年生まれ。東京大学工学部土木工学科卒。東京大学および政策研究大学院大学名誉教授。工学博士。GS デザイン会議代表。エンジニア・アーキテクト協会会長。著書『土木造形家百年の仕事—近代土木遺産を訪ねて』（新潮社、土木学会出版文化賞受賞）、『土木デザイン論—新たな風景の創出をめざして』（東京大学出版会、土木学会出版文化賞受賞）、『都市の水辺をデザインする—グラウンドスケープデザイン群団奮闘記』（彰国社、編共著）ほか多数。

平成30年度土木学会出版文化賞受賞理由…………本書は、安藝皎一、高橋裕、大熊孝という、歴史と現場調査を重視して川を論じてきた3人の河川工学者の人物像を通して、明治期から現在に至る150年の河川行政の変遷を通観し、近代において河川技術者・工学者は川をどのように捉え何を目指してきたのか、残された課題は何かをまとめた書籍である。

治水、即ち洪水への処し方として、溢水を許容するか否かについて、河川行政の考え方や治水計画の基本となる「計画高水」の目標の変遷、および時代ごとの河川工学者の論争、社会情勢や国民の意識を踏まえた対比が全編を通してテーマとなっている。特に、近代河川工学が始まって間もない明治期の技術思想について丹念に記述されていることは興味深い。

河川工学を専門としない著者による丁寧で明快な文章は、読み易くかつ理解しやすいとともに多方面にわたる綿密なインタビューや文献調査等に裏付けされた記述として説得力がある。巻末の参考文献と年表も充実しており、初学者や専門外の方の学びにも適した書籍である。

以上より本書は、3人の河川工学者の評伝という形を取りながら、近代河川行政が様々な議論を経て今日に至っている歴史を、詳細かつ分かりやすくまとめた近代河川行政史であり、河川工学をはじめ国土について学ぶ者にとって有用な書籍として土木工学の発展に寄与するものと高く評価される。よって、ここに土木学会出版文化賞を授与する。（土木学会 HP より）

目 次

内務省河川行政の時代

序 章 川との付き合い方、議論のポイント

第1章 内務省土木局の河川行政

土木技官の誕生／低水工事から高水工事へ／「河川法」と「砂防法」／明治四三年大水害と第一次、第二次治水計画／中川吉造の「普通計画」と「非常計画」／治水方式の変遷

第2章 安藝皎一の登場

父・杏一／新潟高校への進学、東大英文科から土木工学科への転科／鬼怒川工事事務所での青山士との出会い／富士川工事事務所での経験、「河相論」の発表／青山士と宮本武之輔という二人の先輩

第3章 TVAと河水統制事業、宮本武之輔

専用ダムの時代／河水統制事業による多目的ダムの開発／戦時色の強まりと宮本武之輔の登用

復興・高度成長と河川

第4章 戦後大水害の時代（昭和二〇～三四年）

枕崎台風、キャサリン台風／資源調査会の発足／確率論的基本高水への変更

第5章 高橋裕と安藝皎一の出会い

静岡生まれの静岡育ち／第二工学部への進学、安藝との出会い／大学院から専任講師に／川を見て回ったフランス留学

第6章 水害論争

安藝の下に集まった資源調査会の強者たち／大蔵省主計官の治水計画論

第7章 教授・高橋裕

助教授、河川研の行方／教授昇進

第8章 高度成長時代の河川行政（I）

「河川砂防技術基準」の成立／河川計画の目標と基準／治水長期計画

第9章 河川工学者・大熊孝の出発

付き合いの始まり／台湾からの引き揚げ／千葉での生活／東大入学／応力研から河川研へ、学生結婚／博士論文、就職

第10章 大熊と宮村忠、虫明功臣

三人の出会い「隔離病棟」／虫明功臣／宮村忠／三人組の高橋、安藝評／広瀬典昭の人物評

第11章 高度成長時代の河川行政（II）

ダム反対運動／水害裁判／総合治水／日本河川開発調査会の発足

環境・景観・自治の河川へ

第12章 大熊孝、長岡へ

信濃川が日常の川に／新潟で始まった研究者生活／『利根川治水の変遷と水害』——大熊河川工学の出発点／『洪水と治水の河川史』——水害の受容宣言／『川がつくった川、人がつくった川』——大熊河川観の完成／哲学者、内山節との出会い

第13章 高橋裕の土木学会

学会誌の編集活動／社会に開かれた学会へ

第14章 市民工学者・大熊孝

萬代橋、市民の愛着／映画「阿賀に生きる」の製作／新潟水辺の会／一般図書の影響力

第15章 環境・景観対応の河川行政

公害の時代／河川環境整備／バブルの時代／多自然型川づくり／河川横断工作物と環境・景観

第16章 河川行政、残された課題

現在の到達点／堰と河口堰／脱ダムと基本高水論争／スーパー堤防と超過洪水対策／住民参加の「河川整備計画」／総合治水

発行：株式会社 農文協プロダクション

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-17

電話 03-3584-0416 ファックス 03-3584-0485

<http://www.nbkpro.jp/>

発売：一般社団法人 農山漁村文化協会（農文協）

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

電話 03-3585-1142（営業） 03-3585-1145（編集）

ファックス 03-3585-3668

<http://www.ruralnet.or.jp/>

かだ
嘉田由紀子（前滋賀県知事）

好評
発売中!

命をつなぐ政治を求めて

人口減少・災害多発時代に対する〈新しい答え〉



まずは、議論を積み上げよう！

後追い型ではなく「事前対応型」の政策を滋賀県政で実行してきた著者による人口・格差・経済・災害問題に挑むこれからの政治への新しい提案。

[著者略歴]

嘉田由紀子（かだ・ゆきこ）

1950年埼玉県本庄市生まれ。京都大学大学院・UISコンシン大学大学院修了。農学博士。1981年滋賀県庁に入庁し、琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員を経て、2000年京都精華大学人文学部教授。2006年7月、新幹線栗東新駅や県内6つのダム、廃棄物処分場などの高コスト公共事業の凍結・中止を含む「もったいない」マニフェストを掲げて当選。2010年、二期目に過去最大得票で当選。2014年知事勇退後、びわこ成蹊スポーツ大学学長、2017年引退。チームしが代表。

【本書の目次】から

序 章 「現象後追い型」ではなく「事前対応型政策」を！

第1章 人口減少に対する〈新しい答え〉

出生率全国二位の滋賀県から発信できること

フランスの子育て政策は「家族省」による横串政策を実現

子どもは親を選べない—孤立する母親・父親が苦しむ結果の児童虐待

孤立する母親たちへの支援—子育てホット支援、専業主婦にも保育園の開放を
これからの子育て支援は「子ども・家族省」による横串のセーフティネット政策で
ほか……

第2章 格差社会と経済問題に対する〈新しい答え〉

働く場への橋をかけて、雇用確保による生活保障を

企業誘致で地域を元気に！ ローカルとグローバルのバランスをとる

琵琶湖の環境保全と両立できる企業立地を！

環境保全型、内需型、研究開発型の企業誘致、八年間で二五〇社を超える
地域の魅力まるごと産業化でブランド力を高める
ほか……

第3章 高齢化社会の不安に対する〈新しい答え〉

滋賀県の男性寿命日本一はなぜ？

死をタブー視しない政策を知事選挙で訴え、地域包括ケアシステムを展開する
多職種連携のネットワークは県民の安心づくりのために
ほか……

第4章 災害多発不安に対する〈新しい答え〉

二〇一八年七月の西日本豪雨で見えてきた流域治水政策の必要性

「洗堰の全閉解消」を下流への脅しとしない知事としての決意

滋賀県独自の命を守る流域治水政策は生活環境主義を基調とした新しい答え

国の縦割りを乗り越え、予防から発災後の復興・再生を一貫してできる組織を

三日月知事の大戸川ダム建設推進は「忘己利他」ではなく「忘他利己」か？
ほか……

第5章 原発依存社会に対する〈新しい答え〉

なぜ「卒原発」を滋賀県から提唱したのか「被害地元」知事の責任と苦悩

関西広域連合の「カウンターパート支援」と全国知事会での「卒原発」の提案

原発は、エネルギー政策の原理に適合しているのか？

原発に依存しない新しいエネルギー社会づくり—滋賀県としての新しい戦略

「生活防災」を入れ込んだ防災危機管理センターと「防災・復興省」（仮称）の提案
ほか……

定価=1800円+税

四六判・並製 348ページ

お近くの書店（店頭がない場合はお取り寄せも可能です）またはAmazonや楽天などウェブ書店
でも購入可能です。

お問い合わせは風媒社まで (TEL:052-218-7808 E-mail:info@fubaisha.com)